

# プロジェクトコーナー

## クハンの原生林保護とアグロフォレストリー

(イオン環境財団助成事業)

クハンは36世帯の小さな集落ですが、その農地は山々の斜面の広範囲にわたっています。住民は「クハン自然農業組合」を結成し、今年度はそこから15世帯を選んで、苗の提供と有機農法の指導を行っています。その15世帯はチボリ民族が10家族、キリスト教徒が4家族、イスラム民族が1家族からなっています。

組合員の皆さんに助成で建設した集会所に集まっていたいただき、質問しました。主に組合長のファラドさん(35才)が答えています。

Q. 7月に研修と他農場見学を行ったそうですが。

A. 研修では教室で黒板を使い勉強しました。午後から農場に出て実技を学びました。果樹の手入れ、有機農法の技術などです。私たちは、このような研修を受講したことはありません。トウモロコシだけでなく、いろいろな作物を一緒に植えることを知りました。

Q. 今後も有機農法を続けたいですか？

A. はい。農薬、化学肥料は価格が高く、前借りで購入しますがその金利が高い。また化学肥料は環境に悪いことも研修で学びました。雨季には土壌が流出する。土が弱くなっているのです。

Q. 親戚、友人に教えたいですか？

A. 元々私たちはお互いに助け合ってきたので、もちろん知人に広めたい。

Q. 何か要望はありますか？

A. 果樹をもっと植えたいです。今回は農地1haにバナナ、トリアン、ランブータン、ジャックフルーツ、グアバとピーナッツを植えましたが、まだまだ植えることができます。

この要望にはぜひ応えたいですが、その前に、待っている残りの21世帯分の資金を獲得しなければなりません。再度イオン環境財団に申請中です。



集会所の前で組合員の皆さんと

## 苗木育成と栽培技術研修によるピラーンの村の収入向上事業 (WE21 ジャパンみどり支援事業)

54号でお伝えしたオロムラオ村で、有機農業研修が3日間開催され、初日だけ参加しました。講師はマノボ民族出身のマンパライアさん。マニラのフィリピン大学農学部で有機農法を学び、ミンダナオに戻ってからは、農業を通じて先住民のために働いてきた方です。

出席者は約30名。男性の方がやや多い感じ。午前中の講義は、まず先住民民族権利法から始まりました。それだけ先祖伝来の土地で農業を行って自立することにこだわっているからです。その他、土砂崩れがどうして起きるか、木が無いと何が問題なのか、等高線農法について、などです。昼食を皆でとった後、午後の内容は化学肥料・農薬が何故いけないのか、飛行機で農薬を撒いている大規模農園の健康被害について、鉱山開発について、土地権利取得のための申請の仕方についての講義でした。

2時半、ネイティブコーヒーで休憩。ここで、コーヒーの有機栽培の方法に移って、4時終了。



講師の話に熱心に聞き入る出席者

初日だけでも盛りだくさんですが、最も印象に残ったのは先祖伝来の土地を守ることに「どうせだめだから、と消極的になってはいけない。勇敢に立ち向かおう！」という言葉です。マンパライアさんは同じ先住民民族として、住民がうまく自分たちの気持ちや状態を表現し、訴えることができない状況をわかってらっしゃるのだなと気づかされました。

## 小学校教師国家試験受験支援事業

(WE21 ジャパンさいわい支援事業)

エドウィン、メグレリン、フランスの3名は小学校で補助教員をしつつ、週末は受験準備をしてきました。そして9月28日が国家試験。発表は来年の予定です。それまでまだまだ気が抜けません。